

第2章 小学校における事例

1 個別の指導計画を作成するに当たって

(1) 児童のことを思い浮かべよう

学級にいるすべての児童のことを思い浮かべてみましょう。

「Aくんは、とても丁寧にノートをとっているな。」「Bさんは、困っている友達に必ず声をかけているな。」「Cくんは、みんながはっとすることを発言しているな。」一人一人の顔が浮かんだとき、その児童の得意なことや良いところが思い浮かべられるでしょうか。

また、「Aくんは作業のスピードがゆっくりだから、何をするにも時間がかかっている。」「Bさんは、友達から何かを頼まれると、断ることができなくてストレスをためてしまう。」「Cくんは、授業中に自分の思ったときに発言をしてしまう。」など、その児童がどのような時にどのようなことで困っているかということも思い浮かべられるでしょうか。

(2) 思い浮かべたことを書き留めよう

思い浮かべたことを「(ア)プロフィール」の「記録」「児童の様子」欄に記入しましょう。この2項目については、特定の児童だけでなく全員に記入します。この作業は手間がかかるように感じられますが、学級担任なら誰もがやっていることです。委員会やクラブ、係活動などの特別活動、各種記録会出場やコンクールでの入賞記録なども記入するようにしておくと、よいこのあゆみや指導要録、学期末個人懇談や教育相談での資料として活用することができます。児童の様子が見えてくる5月末頃までに作成しておきたいものです。

次のような項目別に記録すると、得意・不得意の傾向が見えてきます。

学習面...学力、学習意欲、教科ごとの特徴、「科学賞受賞」などの特記事項も記入

情緒・行動面...感情や行動の特徴、生活の中での特徴的な様子

対人・社会面...友達との関わりや、ルールやマナーなど社会的な行動の様子、学級での係活動の様子なども記入

健康・運動面...健康状態や身体的特徴、偏食、運動の様子、陸上記録会や水泳記録会などの特記事項も記入

全員にプロフィールを作成するうちに、今まで何となく分かっていたことが明確になります。始めは書ける部分だけ書き込むようにします。無理に全部の欄に書き込む必要はありませんが、「この部分はまだよく分からない」と思うところは、まだ児童の様子が見えていないということです。ここで書けなかった点が今後のポイントになります。それは、これからその児童のどの部分に着目してみればよいかということが分かるからです。



(3) 日頃のできごとを記録していこう

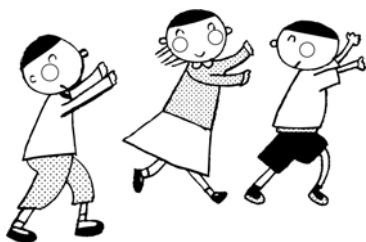
日々の学校生活を通して児童の良いところ・困っているところを把握すると同時に、日常のできごとを記録していきましょう。(2)で、「5月末頃までにプロフィールを作成する」と述べましたが、毎日のように「困っているところ」が頻発する児童がいれば、事細かにその都度記録をとるようにします。

「困ったこと」の主語は児童であることを確認しておきます。児童が頑張ろうとしているがなかなかうまくいかないことや、どうしてもトラブルや失敗経験につながっていることなどを記録します。活動への集中しにくさや友達とのトラブル、教室で目立つ行動など気になる行動に着目しがちですが、学習面や運動面で困っている児童についても細かく見ていくようにします。

「(ウ)行動記録」の項目に沿って、一連のできごとの記録をとってみましょう。ここで重要なのは、記録の際に教師の主観を交えないで客観的事実のみを端的に記入することです。できごと(事実)を丁寧に記録すると、その児童がどのような場面で困っているのかという傾向が見えてきます。

いつ・どこで…… 日付、場所、教科や休憩時間などどのようなときに
できごと…… 児童がどのようなことをしたのか・どのような様子なのか
できごとの背景…… その直前にどのようなことがあったのか
そのときの対応…… 教師が児童やできごとによりどのような対応をしたのか
対応の結果…… その結果児童やできごとがどのように変化したのか

児童が困っている状況では、事前事後に関わらず教師は何らかの対応(指導や支援)を行っています。その対応がうまくいってトラブルが解決したり困った状況が好転したりすることもあれば、いくら指導してもうまくいかなかったり指導すればするほど状況が悪化したりすることもあります。これまでに行った対応のうち、うまくいったことには「」うまくいかなかったことには「」をつけて評価しておきます。「」がついたものについては、今後の支援の手がかりになります。また、「行動の記録」を読み返したときに「」ばかりが並んでいると、「」がつくように何とか支援を工夫しようという気持ちにもなります。



(4) 支援の手がかりを見つけよう

「(ア) プロフィール」の中で「困っているところ」が多い児童や、「(ウ) 行動記録」が増えている児童については、「(ア) プロフィール」の中の「支援の手がかり」の欄を記入してみましょう。日頃教師が行っている言葉かけなど、取り立てて「支援」として意識していないことであってもよいのです。「困ったところへの支援とその結果」の欄にちょっとした対応を記入すればよいでしょう。この際、「(ウ) 行動記録」の「そのときの対応」を参考にして転記するのもよいでしょう。「名前を呼んで個別にゆっくり話ただけで分かった」「黒板にヒントを書いても注目できにくかった」などのように、児童の困ったところに対して教師が行った対応(支援)と共に、そのときの児童の様子も書いておきます。そうすると、児童に合う支援の方法や反対に合わない方法などが分かってきます。

「好きなこと・キャラクター、趣味、得意なこと、将来の夢等」の情報は、今後の支援につながる重要な要素です。好きなことやキャラクターは、共通の話題になるだけでなくご褒美に使うことができます。趣味や得意なことが分かれば、それを生かして係を依頼するなど活躍の場を作ることができ、自信や意欲を育てることにつながります。



(5) 「困っているところ」が多い児童をもっと細かく見よう

困っているところが多いといっても、何についてどのように困っているのかを細かく見ていく必要があります。「漢字が読めなくて困っている」「算数の時間にやる気にならずに困っている」「ルールが守れなくて困っている」というようにできないことについて大まかにとらえてはいけません。AくんもBさんも「漢字が読めない」という同じような特徴があるとしても、下学年の漢字は読めるのか、どの漢字であれば読めるのか、時間はかかるがゆっくりであれば読めるのかなど、児童はそれぞれに実態が異なります。その児童が「何ができるのか」を明確にしておく、今後の指導目標につながります。

児童には、できないことばかりがあるわけではありません。必ずできることがあります。できないことばかりしなくてはいけない状況では、困ったことが多くなってしまいます。「こうすれば分かる」「これならできる」ということを、以下の項目を参考にして整理するとよいでしょう。

学習面

- 【読む】 平仮名・片仮名・漢字(学年)、文字・単語・文・文章、文字の大きさ、教科書・黒板、視線の移動だけで・指でなぞって
- 【書く】 平仮名・片仮名・漢字(学年)、文字・単語・文・文章、文字の大きさ、教科書・黒板、筆順、字形、経験・気持ち・感想、ヒントの有無(聞いて書く・見て書く・写して書く)
- 【聞く】 指示、単語・文、一対一のやりとり・数人の会話・話し合い、注意の向け方
- 【話す】 単語・文、一対一のやりとり・数人の会話・話し合い、質問に対して・経験したこと・気持ちや感想、話題に沿った内容、場に応じた話し方
- 【数量概念】 10のまとまりが分かる、大きさ・重さ・かさ・時間・距離などの理解
- 【計算】 繰り上がり・繰り下がり、具体物で・指で、暗算・筆算・電卓
- 【教科の違い】 国語、算数、社会、理科、生活、図工、音楽、体育、道徳、総合

情緒・行動面

- 【集中力】 どの場面で何分程度、季節(温度・湿度)による違い、座席による違い
- 【感情統制】 失敗への耐性、場面による違い、切り替えのための時間、いらいらしたときの様子、いらいらしたときの落ち着き方(場所、グッズ)
- 【行動調節】 動作の様子(俊敏・ゆっくり)、行動開始までの時間、場面による違い
- 【見通し】 スケジュール・予告の有無による違い
- 【こだわり】 特定のもの、決まった時刻・時間、決まった行動
- 【理解の特徴】 見て理解・聞いて理解・言葉で理解・絵や図で理解、1つずつ順に理解・全体を見て理解
- 【生活の様子】 整理整頓、忘れ物、身だしなみ、着替え、食事、掃除

対人・社会面

- 【友達との関わり】 緊張しやすさ、積極的・受身・無関心、そばにいる・一緒に活動、相手に合わせて・一方的に、相手の気持ちの理解
- 【大人との関わり】 緊張しやすさ、積極的・受身・無関心、そばにいる・一緒に活動、相手に合わせて・一方的に、相手の気持ちの理解
- 【ルールの理解】 理解できること・理解できていないこと、理解できているが守れないこと・確実に守れること、変更の理解・変更への対応、
- 【話し合い】 話題や内容の理解、注意の向け方・時間の経過による変化、話し合いのスキルの理解・主張の仕方・譲り方
- 【チームでの活動】 ルールの理解、役割の理解、分担・交代の理解
- 【関係性の理解】 できごとの前後関係、できごとの因果関係、できごとによる感情の変化
- 【雰囲気・表情の理解】 相手の表情を読む、雰囲気を察する

健康・運動面

- 【健康】 慢性疾患、服薬、定期的な通院、運動制限
- 【偏食】 食材・料理・調理法・味つけ・におい・食感、場面による違い
- 【微細運動】 鉛筆の使い方（書く・塗る）、はしの使い方（つまむ）、はさみの使い方（連続・単発、直線・曲線）、楽器の演奏（鍵盤ハーモニカ・リコーダーの指使い）コンパスや定規の使い方
- 【粗大運動】 歩く・階段の昇降、走る、跳ぶ、投げる、バランス感覚
- 【協調運動】 縄跳び、水泳、跳び箱、アスレチック



(6) 目標と具体的な支援を考えよう

指導や支援を考えていくときに、できないことをターゲットとして取り上げるとうまくいきません。児童の困っていることの要因に着目し、要因を軽減したり除去したりするための支援を考えていかななくてはなりません。児童が困っていることの中で優先課題を選び、どうして困っているのかということのをこれまでのできごとや記録から分析し、もうすぐできそうなことにポイントを絞って指導・支援を行います。

まずは、「年度末にはこのようになってほしい」という児童の姿を想像してみましょ。それが「長期目標」(1年スパン)となるので、「(イ)指導・支援の計画」の「長期目標」の欄に記入します。続いて、今の児童の姿から「こんなことができるようになってほしい」ということを具体的に考えてみます。これが「短期目標」(2～3か月スパン)となるので、「短期目標」の欄に記入します。児童によって「学習面」「情緒・行動面」「対人・社会面」「健康・運動面」のうち空欄があってもいいです。指導・支援を計画的に行う部分のみ記入します。

目標を決めたら、教師が行う支援の手立てを考えてみよう。これまでに記録した「(ア)プロフィール」の「困ったところへの支援とその結果」や、「(ウ)行動記録」の「そのときの対応」「対応の結果」を参考に、どのような支援をどのようなタイミングで行うとよいのかということを検討し、計画的に行うようにします。これを「(イ)指導・支援の計画」の「手立て」の欄に記入します。支援は担任だけが行うものではありません。学年や管理職、特別支援教育アシスタントの協力を得て行う場合もあります。誰が行うのかということも明確にします。

まずは担任が日頃の様子を振り返りながら検討・作成してみましょ。あるいは、学年など児童のことをよく知る職員数人で話し合いながら作成してもいいでしょう。担任1人だけでは視点が限られ、支援のアイデアにも限界があります。複数の視点や考え方を取り入れながら、より客観的に児童のことを考えていくことができます。作成した計画をもとにして、校内委員会などで方向性や具体的な支援の役割分担などを確認します。

(7) 日々の支援とその効果を確認しよう

上記のような計画のもとに指導・支援を進めますが、その間の様子を「(ウ)行動記録」に記入します。目標として取り上げたことを中心に、うまくいった手立てや児童の様子が変わってきたこと、新たに見られるようになった課題など、教師がとどめておきたい情報を書き留める。継続することが大切なので、無理のないペースで記録するといいです。

設定した目標がそれで良かったのかどうか、また教師が行った支援が妥当であったか、児童にとって効果的であったかということを定期的に振り返り、確認する必要があります。短期目標の設定 具体的な支援の手立ての検討 経過と評価を1つのサイクルとして、定期的に校内委員会などで振り返りと検討の場をもつようにします。「(ウ)行動記録」をもとに、指導・支援や児童の様子を振り返ってまとめ、「(イ)指導・支援の計画」の「経過・評価」の欄に記入します。

新たに見られた課題で児童にとって緊要なものについては、年度途中であっても指導・支援の対象として取り上げていいです。その際、「(イ)指導・支援の計画」に「長期目標」の欄を付け加え、(6)で述べたように目標を記入します。

ちょっとした支援であっても児童に大変有効なものがあったり、担任が良かれと思って行っても実は児童にとってあまり効果のない支援があったりします。「経過・評価」をもとに客観的に評価をし、支援を精選しましょう。うまくいかない場合は、校内委員会などでアイデアを出し合い、支援の内容を再検討します。また、ある時点で決めた目標が本当に妥当であったのかということも、同時に見直していきます。目標として設定した項目・具体的な数値が適切でなければ、思い切って変更することも大切です。

日々の実践を進めながら、必ず「(ウ)行動記録」をとり続けます。児童に見られた傾向や特徴を整理して支援につなぎ、定期的に見直し評価・検討します。その後も短期目標の設定 具体的な支援の手立ての検討 経過と評価のサイクルで指導・支援を計画的に行うことが大切です。



2 個別の指導計画の作成

(1) 行動面に課題がある児童の事例

ア プロフィール

記入日
平成〇〇年 〇月 〇日

〇〇小学校 〇年 〇組 〇番

フリガナ		
児童名	□ □	□ □

記録	特別活動	保健委員会	フットベースボールクラブ	体育係	
	その他	「いいところ」「困っているところ」は全員に書いてみましょう。書けない箇所は空欄にしておき、気をつけて児童の様子を見るように心がけます。			

情報整理	学習面	情緒・行動面	対人・社会面	健康・運動面	
	学力 学習意欲 教科の特徴など	情緒・行動の特徴 生活の様子	友達との関わり・仕事 社会的な行動の様子	健康・身体的特徴、偏食など 運動の様子	
児童の様子	いいところ	よく発表する。どの教科も、ミスは多いものの概ね理解し、計算などもできる。	立ち直りが早い。	委員会でビデオ録画する等派手な仕事は進んでいる。	好き嫌がなく何でも食べ、給食もよくかわりする。外遊びが好きで、休憩中はたいていボール遊びをしている。
	困っているところ	こつこつと努力したり丁寧に取り組むことが苦手。家庭学習が定着していない。宿題はやらなかったり、計算ドリルの答えを写してきたりすることが多い。	些細なことで怒り、暴言を放ったり暴力をふるったりする。	日々の石鹸配りなどの地道な当番活動は続かない。掃除をさぼる。給食当番では自分に多く配ったりする。	ボール運動は得意だが、鉄棒や跳び箱など器械運動は苦手。朝食をとっていないことがある様子。

支援の手がかり	困っているところへの支援とその結果	①宿題は初めの1問目を一斉指導しその続きを同じようにするようになった。 ②宿題をする時刻頃に電話をかけて応援した。 →宿題は提出できるようになった。	行動記録を取り、暴言・暴力のきっかけを見つける。 →勝負に負けたときや注意を受けたときがきっかけとなる傾向がある	掃除の手順表を班毎に作成させた →自分の作成した箇所ではよくやったが、他の班の手順表には従えない。	「朝食を自分で用意しよう」という学級指導を行った。 →「パンを買っておいで食べてきた」と話してきた。
	保護者の願い	勉強は概ねできればよい。	理由なく切れたりしないので、必ず理由をきいてやってほしい。	仕事はきちりやらせてほしい。	朝食を食べて登校させるよう心がけたい。
	好きなこと、キャラクター、趣味、得意なこと、将来の夢など	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビゲーム「パワプロ君」に熱中している。 ・将来の夢はプロ野球選手。 ・好きなキャラクターはケロロ軍曹。 			

小さなことでも、実際にやってみたこととその結果を書いておくと、その後の支援のヒントになります。

イ 指導・支援の計画

〇〇小学校 〇年 〇組 〇番

フリガナ		
児童名	□ □	□ □

医療歴等	機関名		受診日	平成	年	月	日
	担当者名						
	診断等						
	検査結果等						

	学習面	情緒・行動面	対人・社会面	健康・運動面
5月〇日(〇)	長期目標 (年度末に児童がどのようになっているか) ・自分から進んで学習や宿題をする。	・暴言や暴力を止める。	・決まりを守って自分の仕事をする。	実態把握が不十分な場合は、行動記録をとってから行動の要因を分析し、短期目標を決めてもいいでしょう。
	短期目標 (何がどうなるとよいのか) ・宿題をやってくる。(計算ドリルは「筆算・答え合わせ」も)		・掃除をさぼらさない。	
	手立て (そのために何を するのか) ①宿題のやり方をノートに書かせる。 ②できていないときは学校で仕上げる。	・どんなときにパニックになるか傾向を見つける。(行動記録をとる)	・やるべき仕事を順番に示し一緒にする。	
7月〇日(〇)	経過・評価 (支援の効果や今後の対応) ・計算のようにまだできていない(マス)の残った。	目標・手立ての設定後の様子を、(3)をもとにまとめて記入します。これらの様子をもとに、次の短期目標を設定します。		・時々朝食がとれていない様子。
	長期目標 (年度末に児童がどのようになっているか)			・朝ごはんを食べて登校する。
	短期目標 (何がどうなるとよいのか) ・皆の「お手本」となるようなノートを書く。	・「負け」や「注意」を受け入れる。	・友達と一緒に作った手順を守り、協力して掃除をする。	・自分で朝ごはんを用意する。
	手立て (そのために何を するのか) ・「日付・筆算・答え合わせ」のやり方を教え約束事とし、できた日にお手本として紹介する。	・学級全体で、「失敗したとき」や「負けるとき」の対処法について事前に決めておく。	・掃除の手順表を各班毎に作成し互いに説明しあって掃除する。	①保護者へお願いする。 ②朝食は自分で事前に用意するよう学級指導を行う。
10月〇日(〇)	経過・評価 (支援の効果や今後の対応) ・夏休み中の計算ドリルノートがほぼ完璧にできており、絶賛！文字通り「お手本」となった。算数のテスト結果も向上した。 ・「調べ学習」を始めたが不許可である「インターネットプリントアウトの貼付け」しかない。	・本児に限らず全般的に失敗を「セーフ」「残念！」「Oh, my God!」等笑ってやり過ごせるようになった。 ・行動記録から、苦手なことや初めての活動前には、不安から既にイライラし始めていることが分かった。	・自分が中心となって作成した手順表には従って調子よくできたが、他の班の手順表には従えない。	・朝食をとると調子が良い。目標が達成されたときには、手立てを継続しながら経過観察としてもいいです。
	短期目標 (何がどうなるとよいのか) ・「自主学習」や「宿題」を通して、自分の力が付いていることを実感する。	・初めてのことや苦手なことでも取り組む。	・「一般のルール」の必要性を理解し、ルールを守ることも悪くないと感じる。	
	手立て (そのために何を するのか) ・テレビ番組の「ガリ勉クイズ」を社会科に取り入れ、児童の調べ学習ノートから出題し、班対抗クイズを単元ごとに行う。	・活動前に「今回の不安点」を学級全体で明らかにし、全員がクリアするためのスモールステップ法を皆で考え工夫できるようにする。	・本児の好きな野球選手の言葉を集めた冊子を活用したり「ルールがあってこそ成り立つゲーム」等とつなげて話をする。	
2月〇日(〇)	経過・評価 (支援の効果や今後の対応) ・熱心に家庭で調べ学習に取り組む、誰も知らなかったことを発表する楽しさを覚えた。だんだんと学習のやり方が分かってきた。できない日もあるが、努力すれば身に付きいいこともあり、怠れば遅れるということは実感できた。	・できないところを人に見られるのが嫌だったが、棒上りや一輪車の練習を始めた。できないことを受け入れられ、笑顔が増えた。	・本児がルールを守ったり譲ったり仕事をしたりしたときは、他の児童が良いことと紹介してくれるようになった。友達の賞賛の方が遥かに効果的である。引き続き指導が必要。	・朝食を食べることができるようになり、心も体も健康になってきた。

ウ 行動記録

〇〇小学校 〇年 〇組 〇番

フリガナ		
児童名	□ □	□ □

○△	月日・時刻・場所・教科等	できごと	できごとの背景（直前にあったこと等要因）	そのときの対応	対応の結果
△	4月〇日（月）～毎日	・宿題（計算ドリル）をして来ない。	・中学年でも宿題はしてこなかった。「忘れまし」ですまそうとしている。	・他にもしていない児童が数名いたので休憩中にやり遂げさせる。	・本児のみやってこないの注意すると無言でにらみつける。
△	4月〇日（木）昼休憩	・ドッジボールが顔面に当たり、投げた友達をこぶしで殴る。	・4時間目の体育で行ったボールリレーの時、負けて暴言の言い合いをしていた。	・どんな理由があるにせよ、暴力はいけないと諭すが誠実には謝れない。相手のけがもあり保護者に連絡。	・殴ったことに関して保護者からも促されて謝るが納得はしていない様子。
△	4月〇日（金）昼休憩	・班の男児に「ばか、死ね」と言い泣かせる。	・漢字テストが0点だったことを笑われたと言うが、班の子は笑っていないと言う。よく見ると他の児童より手厳しい採点で0点になっていた。	・暴言は許せないが、採点の厳しさも適切でないことを注意する。担任が不公平な採点をしたらどう思うか数人に言わせ、互いに公平かチェックするよう促す。また、暴言には「泣く」ではなく「そんなこと言うな」で対応できるように練習させる。	・皆の前で本児だけでなく、班の児童も注意され驚いた様子だった。
△	5月〇日（木）体育	・バスケットボール試合中、味方の顔面に強いパスを直撃させ泣かせる。	・どこのチームとやっても負け、味方にパスを回さず一人で何度もシュートするが入らずイライラしていた。	・「わざとだ」と皆から言われ怒って止めてしまう。班内全員パス回しをルールに取り入れる。	・「パス回し」がゲームに役立っていると考えられず適応できない。
△	5月〇日（金）学級会	・班の女児に「ばか、死ね」と言い泣かせる。	・隣席の女児が、学級会中の本児の態度を何度注意しても聞かなかったため「あんたなんかもう知らん」と言った。	・「あんたなんかもう知らん」でなぜ怒ったのか皆で考えさせた。「注意を止めて欲しいのか」「本当はちゃんとしたいのかも」など歩み寄り発言が出始めた。また、暴言には「泣く」ではな対応を再確認。	・注意の仕方を工夫する児童が出てきた。穏やかに注意されたときには「ばか、死ね」とは言わないことが皆にも分かった。
○	6月〇日（火）体育	・バスケットボールの試合で負けても怒らずにここにこしていた。	・試合前に「負けるのは誰でも嫌」などを話し、シュートに失敗したときの立ち直り台詞やかけ声を事前に話し合った。	・本児だけでなく「残念！」や「Oh, my God!」などの声が飛び交い、試合が円滑に進むだけでなく、体育館全体の空気が良かったことを称えた。	・本児を含めた皆が笑顔で体育を終えることができた。
○	6月〇日（月）期	・宿題を答え合わせまできちんとやってきた。	・前日電話して何時間宿題でわからないところはないか尋ね、終わった頃にまた電話した。	・皆の前で「いいスイッチが入った」と賞賛。	・無言だが喜んでいたと思う。
		(2)で指導の計画を立てた後も、児童の行動を記録します。どの手立てのときにどうなったのかが分かるように書くといいでしょう。	「～しんさく穏やかに」「今は～するんよ」と小声で話しかけた。	・女児の温かい注意の仕方と、その注意を受け入れて行動を変えた本児の成長を皆の前で誉めた。	・温かい注意の仕方を真似る児童が増え、本児の暴言は減った。たてわり班活動で、下学年への注意の仕方も上手になった。

(2) 学習面に課題がある児童の事例

ア プロフィール

記入日			
平成	〇年	〇月	〇日

フリガナ		
児童名	△ △	△ △

〇〇小学校 〇年 〇組 〇番

記録	特別活動	委員会	科学クラブ	レク係	
	その他				

情報整理	学習面	情緒・行動面	対人・社会面	健康・運動面
	学力・学習意欲 教科の特徴など	情緒・行動の特徴 生活の様子	友達との関わり・仕事 社会的な行動の様子	健康・身体的特徴、偏食など 運動の様子
児童の様子	いいところ	とてもまじめである。しなくてはいけないことに対しては、どんなことにも精一杯取り組もうとする。	友達に優しい。困っている人に対しては必ず声をかけている。温厚な性格なので、友達から受け入れられている。	好き嫌いなく何でもよく食べ、給食はいつもおかわりしている。休憩時間には外で友達と一緒に遊んでいる。
	困っているところ	漢字の読み書きが苦手、読める漢字は2年上の教科書程度、書ける漢字は1年の半分程度。同じ漢字を繰り返し書くと4文字目辺りから間違える。算数では、四則計算はできる。公式や語句を忘れやすい。繰り返して行っていれば覚えている。	身の回りの整理整頓が苦手。学習用具の準備や片付けでは、指示をしてから取り掛かるまでに10分以上かかる。 何が出来るかを具体的に書いておくと、支援のヒントになります。	コンパスや定規などを使って作業するのが苦手。手先の細かい作業は雑である。

支援の手がかり	困っているところへの支援とその結果	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を書くときに、5回繰り返してだけ書くようにする ⇒楽に取り組むようになった。 国語の教科書の漢字に振り仮名を振る⇒音読のときに詰まることが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に指示をしたり、隣の児童が手伝ったりする ⇒とりあえずその場は何とかなるが、本児は変わっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返して個別に伝える ⇒個別に言うことができるが、本児は変わっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 作図の時にはそばについて一緒に作業する ⇒一緒にやればできるが、1人では難しい。
	保護者の願い	みんなと同じように勉強が分かってほしい。そのためであれば、色々な方法を試してほしい。	整理整頓が自分でするようにしてほしい。	気にしていない。	気にしていない。
	好きなこと、キャラクター、趣味、得意なこと、将来の夢など	<ul style="list-style-type: none"> 工作が大好きで、みんなが感心するような発想の作品を作る。 ポケモンのキャラクターや技をよく覚えている。カードやシールを集めている。 年下の児童と遊んだり、幼児の面倒を見たりすることが好き。 好きなことや得意なことを書いておくと、ごほうびとして活用したり、活躍の場を作ったりするのに役立ちます。			

イ 指導・支援の計画

〇〇小学校 〇年 〇組 〇番

フリガナ		
児童名	△ △	△ △

医療歴等	機関名	受診日 平成 年 月 日
	担当者名	
	診断等	
	検査結果等	

	学習面	情緒・行動面	対人・社会面	健康・運動面	
5月〇日(〇)	長期目標 (年度末に児童がどのようになっているとよいか)	3年下の教科書程度の字が読み書きできる。	仕事内容など覚えて、自分で活動できる。	取り立てて指導・支援を行う面以外は、空欄があってもいいです。	
	短期目標 (何がどうなるとよいか)	正しく書ける漢字を増やす(学年相当)。	(1)や(3)で見られた児童の実態のうち、できることを参考に支援を考えます。		忘れてはいけないことをメモにとり、メモを見ながら仕事をする。
	手立て (そのために何をするのか)	①繰り返して書く回数を増やす。 ②テスト前に目標点(10問中5問)を決め、練習する漢字を伝える。			仕事や係が変わる都度、付箋を渡して自分でメモするように促す(要点のみ)。
9月〇日(〇)	経過・評価 (支援の効果や今後の対応)	①5回書くことにすると案に書けるようになったが、書字は定着しない。基本的な漢字(確実に書けそうな2学年程度の字)に絞った方がよい。 ②目標点をクリアできることが増えた。定着は難しい。	前回の目標が実態に合っていない場合は、目標を変えます。必要であれば、思い切って下げてもいいでしょう。	メモを取ったことについては、それを見て忘れずに仕事ができることが増えた。	
	短期目標	①確実に書くことができる字を増やす。(2学年程度) ②テストのときに正確に漢字を書けるようにする。(学年相当)		自分から付箋をもらいにきて、仕事内容などをメモできるようにする。	
	手立て	①2年程度の漢字を選び、自主学習として取り組むようにする。 ②前回の支援を継続。2回連続で目標をクリアできたらポケモンシールがもらえるようにする。		本児が「付箋をください」といいに来るのを待つ。言いにこない場合は、担任から付箋を渡す。	
12月〇日(〇)	経過・評価	①学習した漢字を何日か書きに出題し、繰り返して書くようにすると覚えていく。部首の意味や由来を説明すると、よく覚えていく。 ②漢字が複雑になると覚えにくい。知っている字が合わさった漢字は覚えやすい。	整理整頓を担当や隣の席の児童が手伝っていたが、1人ではできない。声をかけて10分位待つと、取り掛かることがある。	付箋に書くことは定着してきたが、枚数が増えると付箋をどこにやったか分からなくなることがあった。	
	長期目標		1人で学習用具の片づけができるようにする。	年度途中でも、必要に応じて項目を増やしてよい。取り上げた時点で、長期目標を記入する。	
	短期目標	①覚えた漢字の定着を図る。(2学年程度) ②テストのときに正確に漢字を書けるようにする。(前回の目標を継続)	教師の指示したとおりに学習用具の片づけをする。	自分で付箋を管理し、メモを見ながら仕事ができるようにする。	指導や支援が計画的にできなかったことも、次年度につなげるように記録しておく。
	手立て	①新しい漢字と共に、これまでに覚えた漢字を自主学習で取り組むようにする。意味や由来が分かるイラストをコピーして渡す。 ②覚える漢字を厳選し、知っている部首や漢字が合わさったものに絞る。	「片付けよう」ではなく「教科書とノートを机の中に入れて、先生に言って」と具体的に指示する。できたら生活ノートにポケモンシールをはる。	机の左側にビニールテープで枠を作り、そこを付箋コーナーにすることを約束する。付箋の書き方については前回の支援を継続。	
2月〇日(〇)	経過・評価 (引継ぎ事項も含む)	①新しい漢字にこだわらず、覚えた文字を維持できるように繰り返して出題するとよい。イラストは記憶を助ける野に有効。 ②知っている部首や文字が含まれた漢字を覚えるようにすると、定着につながりやすい。	ポケモンシールをもらえるとうれしいようだが、それだけでは継続しにくい。具体的に何をするか伝えること、できたら担任に言うことを徹底するとよい。	机の左側にビニールテープで枠を作り、そこを付箋コーナーにすることを約束する。付箋の書き方については前回の支援を継続。 作業的なことについては、支援ができなかった。自信を無くしかけているので、今後は支援を工夫する必要がある。	

ウ 行動記録

〇〇小学校 〇年 〇組 〇番

フリガナ		
児童名	△ △	△ △

△ 〇	月日・時刻・ 場所・教科等	できごと	できごとの背景（直前 にあったこと等要因）	そのときの対応	対応の結果
△	4月〇日 2校時、 国語	国語の音読のとき、 つまく読めないで泣 く。	これまでに何回も詰まっ て読みにくい様子があっ た。「自分だけうまく読 めない」という気持ちに なったようだ。	隣の児童に「一緒に読 んであげて」と依頼し た。	涙が止まらない。隣の 児童がほとんど読ん だ。漢字が分からず詰 まるようなので、教科 書に振り仮名を書いて もらうよう保護者に頼 む。
△	5月〇日 給食時	友達に囲まれて泣い ている。	給食当番をすっかり忘れ ていて、友達から「いい かげんにして」と責めら れた。以前から何回も同 じことがあったようだ。	分からないことはいつ でも気軽に尋ねてよい こと、友達が困ってい たら気持ちよく助け合 うことを学級で指導す る。	助け合うことは大切だ が、本児ができるよう になることは違う。 聞いて忘れるのなら、 書いてみればいいのかも しれない。
〇	6月〇日 1校時、 国語	音読のとき、初めて 詰まらずに読むこと ができる。	保護者に頼んで、国語の 教科書に振り仮名を書い てもらった。	上手に読めたことを褒 め、そのことを保護者 に連絡した。	帰宅後うれしそうに音 読練習を進んで行う。 保護者に、他の教科書 にも振り仮名を書いて もらう。
〇	6月〇日 5校時、国語	漢字のテストで10 問中5問正解する。	あらかじめテストに出る 漢字を本児に伝え、練習 してくるように伝えた。	頑張ってきたことを褒 める。今後も あらかじめ漢字を伝え た方がよいかを本児に 伝える。	本児にとってやりやす い方法なので、テスト 前には必ず練習する字 を伝える。
		良いことをしっかり記録してお くこと、支援として活用でき ることを（2）に生かし、計画的 に進めます。		「その方が よい」と 言います。	
△	6月〇日 2校時、 算数	定規を使って作図を する問題が全部不正 解。大泣きをする。	隣同士で答え合わせをす る設定にしていた。隣の 児童が厳密に答え合わせ をした。	「誰にでも間違えるこ とはある」と励ます。 その後は担任が答えあ わせをすることに変 更。	涙が止まらない。その 日1日は落ち込んで過 ごす。
〇	6月〇日 6校時、 学級会	班替えに伴い、当番 の仕事・曜日・ペア の友達が代わる。内 容をメモする。	話し合いが始まる前に、 付箋を渡し「当番の仕事 と曜日、と一緒にする人 の名前を書いておいて」 と伝えた。	メモを取ったことを褒 める。「今度から、大 事なことは1こつやっ てメモするといいね」 と確認する。	様子を見て担任が付箋 を渡し、メモを取って 忘れないように気をつ けてみることにする。
〇	6月〇日 6校時、 国語	漢字テストで2回連 続目標点（10問中 5問）をクリアす る。	本児と相談して目標得点 を決め、練習する漢字を テスト前日に伝えた。部 首の意味を説明するよう にした。	連続してクリアしたことを 褒め、ご褒美として生活 ノートにポケモンシールを はる。本児に尋ねると「部 首の意味がわかりやすかつ た」と言う。	今後も「2回連続で目 標点をクリアできたら ポケモンシール」と約 束をする。必ず部首の 意味を伝えるようにす る。
△	7月〇日 2校時、 国語	漢字まとめのテスト の答え合わせで、5 0問中3問しか正解 できず、落ち込む。 涙が止まらない。	これまでに勉強したから 大丈夫だろうと思い、事 前に確認していなかつ た。また、目標点も決め ていなかった。	今回は目標を決めてい なかったことや、事前 に学習する字を伝えて いなかったことを謝 る。「今度から必ず話 し合おう」と約束す る。	励ますが涙が止まらな い。「俺、やっぱりタ メなんじゃ」と言う。
△	11月〇日 4校時終了後	給食配膳時に泣い て、何もしようとし ない。	後期になり、声をかけ ても片づけが出来ない日 が続いていた。1校時 からの道具で机がぐちゃぐ ちゃだったのできつく 叱った。	「自分でやりなさい」 と言ったのだが、泣い てしまって何も出来な い。結局、教師と隣の 子が手伝って片付け る。	叱っても出来るわけ ではない。一人で片付け られる方法を考えなく てはいけなない。

(3) 個別の指導計画

プロフィール

記入日			
平成	年	月	日

小学校 年 組 番

フリガナ		
児童名		

記録	特別活動				
	その他				

情報整理	学習面	情緒・行動面	対人・社会面	健康・運動面
	学力・学習意欲 教科の特徴など	情緒・行動の特徴 生活の様子	友達との関わり・仕事 社会的な行動の様子	健康・身体的特徴、偏食など 運動の様子

児童の様子	いいところ				
	困っているところ				



支援の手がかり	困っているところへの支援とその結果				
	保護者の願い				
	好きなこと、キャラクター、趣味、得意なこと、将来の夢など				

指導・支援の計画

小学校 年 組 番

フリガナ		
児童名		

医療 歴 等	機関名		受診日 平成 年 月 日
	担当者名		
	診断等		
	検査結果等		

		学習面	情緒・行動面	対人・社会面	健康・運動面
月 日 ()	長期目標 (年度末に児童 がどのように なっているとよ いか)				
	短期目標 (何がどうなる とよいか)				
	手立て (そのために何 をするのか)				
月 日 ()	経過・評価 (支援の効果や今 後の対応)				
	長期目標 (年度末に児童 がどのように なっているとよ いか)				
	短期目標 (何がどうなる とよいか)				
	手立て (そのために何 をするのか)				
月 日 ()	経過・評価 (支援の効果や今 後の対応)				
	短期目標 (何がどうなる とよいか)				
	手立て (そのために何 をするのか)				

